

広報・事務局

夫の理不尽な死の真相を求めるナプサさん 私たちにできることは？

前 102 号 P3 でお伝えのナプサさんの夫でカワスのバランガイ長だったハッサン殺害に関して、警察は 8 月 7 日付で前科のある人物を犯人と特定し、被害者家族であるナプサさんに告発状署名を求めました。ナプサさんはこの警察の告発状草案に納得せずサインを拒否しています。ハッサン殺害直前に起きたおとり捜査現場での警察官による麻薬使用容疑者殺害に対して、ハッサンは麻薬捜査官や警察が求めた殺害の正当性の証人となることを拒んだという事情があるからです。ハッサンは麻薬容疑者が先に発砲したという現場を見ていないこと、また、バランガイ長として麻薬撲滅の先頭に立ちながら、麻薬常習者でも更生の可能性があり、即殺害はよくないという信念をもっていました。

ハッサンのバランガイが属しているアラベル町議会も事件後間もなく真相究明決議をしています。

義兄にあたる飯能市在住長瀬理英氏（大学非常勤講師・国際環境 NGO 理事）からは、ナプサさんが 10 月 17 日、警察とは異なる組織である国家捜査局サランガニ支部を訪ねて改めて再捜査を依頼し前向きな回答を得られたという報告をいただきました。真相が明らかになり、ナプサさんやご家族に一日も早く平穏な日々が戻るように、私たちも何か協力できないか、長瀬氏の助言をいただき検討してまいりたいと思います。（事務局）

< 参加予定イベント*ハンディクラフト案内 >

* 新型コロナ問題終息の見通しがたたない中、例年のようなイベントはありません。一方、それに代わるオンラインでの催しに関する案内が届いています。

① WEB かながわ市民活動フェアの特設ページ開設/10 月末から 12 月まで

② よこはまフェスタ・フォーラムに代わるオンラインイベント「SDGs よこはま CITY」/2021 年 2 月頃開催
当団体の対応：①はハンディクラフト活動案内（昨年度のまま）②についてはまだ参加・不参加を決めていません。コロナ終息後には従来のようなイベント参加ができると思いますが、一方で、オンライン開催も定着すると思われる。当事務局はまだ新形態への対応が十分ではありません。ご協力どうぞよろしく。

* ティナラク織眼鏡ケース 50 点、縫製ボランティア安井さんから届きました。（写真：うち 8 点）
定型封筒でお届けできるサイズです。ご関心ある方、事務局までお問い合わせ下さい。



TEL&FAX : 045-500-9151 E-mail: hands-mindanao@nifty.com

< 例会のお知らせ >

第4金曜例会：10/23, 11/27, 12/25（13:30-15:00）会場：本部事務局 現地情報共有や切手整理を予定しています。

< 感謝 >

* ご寄附ありがとうございました（'20.7.23 ~ '20.10.22）

社員会員、定期支援賛助会員の皆様には、会費に加えて、各種ご寄附をありがとうございました。ここでは随時ご協力の賛助会員・一般市民のご寄附（年賀状などの書き損じ葉書寄付含む）について、お名前を記載させていただきます。（敬称略）

小代宣子・芹田美津子・木谷晴彦

< 事務局 日誌より >

8/3, 8/18, 9/9, 9/30, 10/7, 10/15 海外送金（SCMSI, CMIP, PIHS, ILS） 8/19 ホームページ更新/会報102号（高山） 10/4 2020 年度第3回理事会（持回り） 10/7 事務局会議（関・香月・山崎）、高山理事によるzoom会議試行（高山・山崎） 10/17 ビビアンさん告別式・会員有志による弔意表明（献花・香典） 10/15-25 会報103号編集作業（相田・恩田・事務局）

< 会 員 情 報 >

（'20.10.22 現在）

<退会> 賛助 7（長い間のご協力感謝申し上げます） <会員総数> 社員 36 賛助 202（うち定期支援 169）

< 会 員 募 集 >

医療や自立事業支援会費：	月額 1,000 円	（年 12,000 円）
教育全体支援会費（又は小学生奨学金・給食支援）：	月額 500 円	（年 6,000 円）
ハイスクール生徒奨学金支援会費：	月額 1,500 円	（年 18,000 円）
カレッジ学生奨学金支援会費（新規支援について）：	月額 4,000 円	（年 48,000 円）
あしなが奨学金（ブラクール出身カレッジ学生全体支援）：	月額 2,500 円	（年 30,000 円）
チボリ子ども支援（SCMSI 校運営支援、里子支援）：	月額 2,000 円	（年 24,000 円）

（上記支援会費に加え、運営費充当の月500円をご負担いただく社員会員も募集しています）

< 編集後記 >

人が国を超えて動き、国内ではイベントや報告会に人が集って活動を共有する。海外支援活動に欠かせない動きや集まりが難しいコロナ時代。事務局を預かる以上、WEB 広報やオンライン会議の苦手意識は捨てなくてはと思いつつコロナ前を懐かしむ日々です。（山崎）